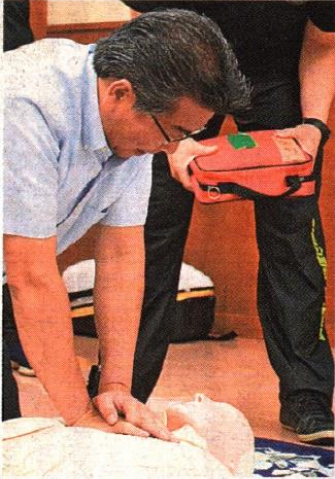


7月 1日（月）新聞掲載（6月26日の職員救命講習）

6月26日に波崎消防署土合分署で教職員が救命講習を実施しました。
生徒にもしものことがあったとき学校の教職員全員で対応できるようみんなで救命講習を受けてきました。

生徒の命を守れ 教員が救命講習

波崎高



生徒の命に関わる事態にも冷静に対応するため、神栖市土合本町の県立波崎高校（秋山克巳校長）の教員16人が6月26日、近くの波崎消防署土合分署で普通救命講習を受講した。同署の救急救命士らの指導の下、胸骨圧迫や自動体外式除細動器（AED）の使用法などの一時救命処置を学んだ。DVDの視聴で心室細動など異常時の体のメカニズムやAEDの役割などを学んだ後、一次救命処置の実習に取り組んだ。「あなた

は119番をしてください」など協力者への依頼の練習もあり、連携した動作を確認した。講習を終えた養護教諭の津嶋純子さん（46）はチームワークある処置が必要と考え、「生徒が倒れたとき、対応できる教員が自分だけではない、心強い」と笑顔で話した。同校は教員へ救命講習の受講を推奨しており、秋山校長は「生徒にもしものことがあったときに安全を確保するため、定期的に講習を実施している」と話した。

連携しての救命処置を実習する教員＝神栖市土合本町

茨城新聞 2019.7.1